

記録的な大雨となっていることをいち早くお知らせします  
～ 記録的短時間大雨情報のより迅速な発表～

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨となっていることをお知らせする「記録的短時間大雨情報」を、これまでより最大で 30 分早く発表します。

気象庁では、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、雨量計で観測した場合や、雨量計と気象レーダーを組み合わせて解析した場合に、その地域にとって災害の発生につながるような稀にしか観測されない雨量になっていることを伝える情報として、記録的短時間大雨情報を発表しています。

今般、雨量を解析する処理を従来に比べて高頻度かつ短時間で行うことにより、解析により記録的短時間大雨情報を発表する場合、これまでより最大で 30 分早く発表します。これにより、土砂災害や浸水害について、大雨注意報・警報などで段階的に報じられる危険度の高まりに加えて、実際に記録的な大雨が降り、状況がさらに悪化したという実況をいち早く伝えることができるようになります（別紙参照）。

この改善は、平成 28 年 9 月 28 日（水）12 時より実施します。

なお、本件は、平成 27 年 7 月の交通政策審議会気象分科会提言「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方」を受けた取組みの一環です。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁予報部業務課

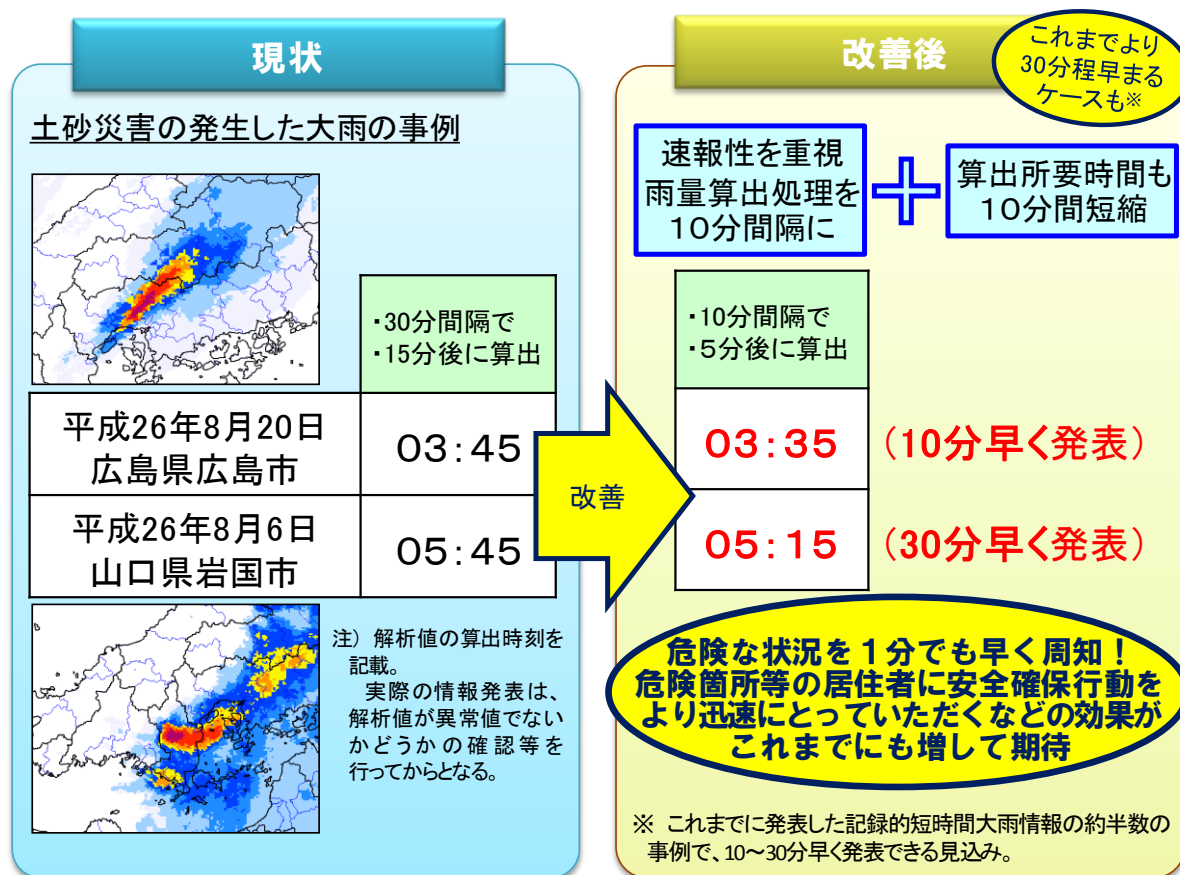
気象防災情報調整室

電話 03-3212-8341（内線 3115）

## 記録的短時間大雨情報のより迅速な発表

交通政策審議会気象分科会提言「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方（平成27年7月）においては、実際に大雨となった場合に、安全確保行動のトリガーとなる実況情報をより迅速に発表していく必要性が課題として挙げられました。

これを受けて、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨となっていることをお知らせする「記録的短時間大雨情報」を、これまでより最大で30分早く発表します。



記録的短時間大雨情報は、アメダス等の雨量計データのほか、雨量計データと気象レーダーを組み合わせた解析雨量を用いて発表しています。

これまで30分間隔で行っていた解析雨量の算出処理を、速報性を重視して10分間隔とし、さらに所要時間を10分間短縮することによって、記録的短時間大雨情報の発表の迅速化を図ります。

## 記録的な短時間の大雨発生から記録的短時間大雨情報発表までの所要時間

	現行	迅速化後
雨量計の観測による発表	約 10 分～20 分	現行と同じ
解析雨量による発表	約 20 分～50 分	約 10 分～20 分

記録的短時間大雨情報が発表されたときは、当該地域で、災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

内閣府がとりまとめた「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」においては、市区町村においては、記録的短時間大雨情報を避難勧告等の発令の判断材料とすることが盛り込まれています。地元自治体の発表する避難に関する情報に留意し、早めの避難を心がけてください。

土砂災害や浸水害の危険のある場所等にお住まいの方で、あらかじめ決めておいた避難場所まで移動することが危険だと判断されるような場合は、近隣のより安全な場所や建物へ移動したり、それさえ危険な場合は、緊急に2階以上の少しでも安全な場所へ退避（垂直避難）したりするなど、安全確保を図ってください。

(参考) 記録的短時間大雨情報について

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kirokuame.html>